

# 「博士号取得支援事業」 2011年度春季 助成金支給者決定



生涯学習開発財団がこの春から募集開始した「博士号取得支援事業」の、平成23年度春季合格者発表と助成金授与式が、5月20日に財団において行なわれました。本事業は、来るべき高齢化社会の生涯学習を促進し、より良い社会づくりに貢献することを目指しています。50歳以上の方で、独創的で社会的に意義のある研究を行い、博士論文を執筆中または提出が予定されている全ての方に門戸が開かれています。第1回目の募集となった23年度春季は、短い告知期間だったにもかかわらず、多彩な分野の多くの方が応募くださり、審査の上、以下の6名の方を助成金支給対象とさせていただきます。

## ●平成23年度春季「博士号取得支援事業」助成金授与者（60音順）

- 伊坂善明（56歳）**  
「公立学校への空調機の一斉導入による効果に関する考察」
- 鎌田隆（69歳）**  
「ベトナムにおけるドイモイ政策と社会主義志向市場経済の歴史・現状・今後」
- 臺由子（50歳）**  
「フランス革命期におけるルーブル美術館の誕生——文化・公共の社会的変容」
- 中西純夫（77歳）**  
「サービス企業における企業文化と接客従業員の共感・感動労働」
- 早川勝夫（53歳）**  
「成人学習におけるメタ認知向上を目指した学習モデルの提案・実践からモデル研究および一般化の研究」
- 堀込和利（65歳）**  
「日本（人）の戦争責任におけるアジアの不在（加害者意識の希薄さ）」



授与式では、理事長・松田妙子が「私は65歳から研究を始め、1999年、71歳の時に博士号を取得しました。学歴、経歴、年齢は関係ありません。努力すれば必ず報われることを実証してみました。しかし、博士号取得で終わるのではなく、実際に社会に貢献したいという意味がありません。そこで私は、日本文化の良さを見直す契機にと、2003年に『大工育成塾』を立ち上げました。そこで学ぶ者は伝統の技を身に付けると同時に、自己を研鑽し、強靱な精神力



を鍛えることができます。将来の日本を支える人材育成につながると思っています」と、博士号取得に止まらず、研究を活かして社会に貢献できる道を作っていた。ただきたいと激励の言葉を贈りました。

## 第1回選考終了にあたって

選考委員長 張競  
(明治大学教授／博士（学術）)



本財団の2011年度春季博士号取得支援事業は去る1月に募集を開始し、4月30日に締め切られました。その間、東日本大震災や福島第一原発事故が起こり、社会生活において一時的に混乱が起きたにもかかわらず、全部で9名の応募がありました。

5月12日、財団の会議室において第一次選考委員会が開かれました。選考委員の先生方による慎重な銜衡が行われ、9名の応募者の内、6名の候補者が選ばれました。5月20日、6名の候補者に対し、松田理事長と選考委員長による面接が行われ、最終選考の結果、6名の候補者が全員合格しました。同日、財団の理事長室で授与式が挙行され、松田理事長から合格者の一人ひとりに合格通知と目録が手渡されました。

合格者のうち、最高齢は77歳。専攻分野は多種多彩で、研究課題は人文社会系ものから工学系もののにいたるまで多岐にわたります。面接の中で、候補者たちは博士号取得の計画について説明を行い、全員1、2年中に学位を取得するよう努力するつもりだ、と抱負を語っています。

日本は世界の中でも平均寿命が高い国です。高齢化が急速に進んでいる今日、生涯学習がますます重要になり、第二の職業人生を目指す人も年々増えています。しかし、そうした社会的な要請に応える応援体制は必ずしも十分に整えているとはいえません。本財団の博士号取得支援事業はこの方面において先駆的な試みです。生涯学習の機会を広げ、よりよい社会を作るために、選考委員一同は皆さんとともに、これからも着実にこの支援事業を推進していく所存です。



# 決定をうけて

# 博士号取得支援

## 伊坂善明 (56歳)



京都府立大学大学院  
生命環境科学研究科

### 研究テーマ

公立学校への空調機の一斉導入による効果に関する考察  
〜環境負荷軽減の観点から〜

### ●研究目的

全国の小中学校の冷房化率が2007年段階で10%にとどまっている中、民間活力の活用手法として注目されているPFI方式を採用して、学校へのエアコンの一斉導入の効果と課題を研究。省エネ面も踏まえたい望ましいエアコン導入のあり方を社会に提言する。

すでに全小中学校へエアコンを導入している京都府長岡京市と研究協定を結び、継続調査を行ってきた。効率・合理的な導入手法の模索は、日本の省エネ対策等にも貢献可能だ。

### ●合格のコメント

今回の財団事業との出会いは、良きアドバイザー役として先輩諸氏の輪を広げることになりました。ありがたいことです。この研究では民間企業のノウハウとパワーとをうまく融合させれば、住民と行政が協力して取り組む街づくりにも一役買つことができると確信しています。東日本大震災後の具体的な省エネ政策のテストケースにもなり得ると考えています。一般化、普遍化を進めていけば、社会の進歩にも大いに貢献できると思います。

## 鎌田 隆 (69歳)



明治大学大学院  
商学研究科

### 研究テーマ

ベトナムにおけるドイモイ政策と  
社会主義志向市場経済の歴史・現状・今後

### ●研究目的

豊富な聞き取り調査により各界各層の意見を取り上げ、ベトナムのドイモイ（刷新）政策と独自の社会主義志向市場経済との関連を理論的に分析すること。著書を2006年に出版した。ドイモイ政策25周年を総括し、現在、新著の出版を準備中だ。新著では前半のインフレ、後半の世界同時不況の影響という「2008年の難関」をどう脱出し、中所得国入りしたベトナム像をフオロー、「中進国の罠」突破のための方策を探っている。

### ●合格のコメント

70歳になっても学位が取れたことが大きな励みになりました。80歳を越えても前向きに活動している理事長とも会え、これからさらなるチャレンジをしていくためのパワーが湧いてきました。新著の内容は明治大学大学院商学研究科の福田邦夫教授の指導・審査・判定を受け、博士論文として認めてもらえることになっております。今後のベトナム経済研究の方向性も探求し、次代を担う若手への橋渡し役にもなりたいです。

## ダイ 由子 (50歳)



学習院大学大学院  
人文科学研究科

### 研究テーマ

フランス革命期における  
ルーブル美術館の誕生  
―文化・公共の社会的変容―

### ●研究目的

ルーブル美術館誕生は、市民革命、公共近代的博物館といったキーワードで括られるが、実際は誕生以前のフランス革命等との関連性が深いことを探ること。君主の象徴であったコレクションという意識が、革命で世界を理解するための道具で、万人のものであるとの方針に変わり、公共という概念の一角となっている。こうした点を追求し、西洋近代化の理性と構造の特質を理解すれば、その後の発展と影響力を知る手掛かりとなる。

### ●合格のコメント

理事長に励まされ、この研究をやり遂げようとの強い意志が固まりました。博物館学者として、この研究による成果をきちっと伝えることが使命と思っています。フランス革命中に出たルーブル宮を美術館にする計画などの史実の追求や、フランス文化行政との観点からのパリ万国博覧会との関連やアンドレ・マルローの研究など課題は多く残っており、明治期の日本の近代化への影響力も、これらの流れの中で捉えられると考えています。

## 中西純夫 (77歳)



千葉大学大学院  
人文社会科学研究所

### 研究テーマ

サービス企業における企業文化と  
接客従業員の共感・感動労働

### ●研究目的

接客従業員の共感・感動労働論の構築。そのために東京デイズニードのキャストに顧客満足を中心にしたインタビューを実施し、驚異的リピート率97・5%を誇る成功の基を考察した。約9割を占める非正社員が自分の仕事に満足し、夢中になって取り組むことで、顧客に「長く思い出に残る感動体験」を与えることなどが顧客感動・従業員感動につながるものとしている。社会学、経営学、心理学の統合が理論の独自色となっている。

### ●合格のコメント

論文を評価されたことは非常にうれしい。博士号を取得後、今後の研究目標を達成していくことが本場の勝負となると思います。東京デイズニードだけでなく、日本マクドナルド、スターバックスコーヒーのサービスと比較し、理論の精緻化を図っていききたい。大規模、中堅中小サービス企業への導入のための具体化案を作成し、実際に導入することができれば、顧客ロイヤリティが高まり、ひとつの社会貢献につながると考えます。

## 早川勝夫 (53歳)



熊本大学大学院  
社会文化科学研究科

### 研究テーマ

成人学習におけるメタ認知向上を  
目指した学習モデルの提案・実践から  
モデル研究および一般化の研究

### ●研究目的

ポイントとなる「自己調整学習者」とは、たとえば生涯学習に取り組む場合、具体的に自分ができることで何をしたら目標を達成できるか等、自分で調整しながら目標に向かう道筋を批判したり確認しながら、コントロールできる人のこと。現在の高等教育や企業内教育では、こういった学習者育成は十分ではなく、これまでの価値観を転換し、この人材育成のための効果的な学習モデルを構築、社会への貢献を図る。

### ●合格のコメント

現在の体制を変革していくには、大きな根拠が必要で、私個人では実現不可能なことが多いです。財団との出会いは、変革へのパワーを結集したり、アドバイスを受けたりと活動の幅を広げる機会を与えてくれました。政治、行政の助力も必要で、そのため人脈づくりにも一役買ってくれと感謝しています。高等教育現場や企業内教育への働きかけで意識変革を促したり、生涯学習者への提案など乗り越えるべき課題は山積しています。

## 堀込和利 (65歳)



明治大学大学院  
教養デザイン研究科

### 研究テーマ

日本（人）の戦争責任における  
アジアの不在（加害者意識の希薄さ）

### ●研究目的

戦争責任問題を通して日本と韓国、中国などのアジア諸国との歴史を正しく認識し、アジアに対する日本の立場を明確にすること。勉強・研究を進めると加害者としての日本は存在せず、これでは韓国や中国からいまだに批判を受けても仕方がないと実感した。明治以降の日本の近代化がアジアの侵略につながるという日本の加害者意識を突き詰め、平和や環境問題を中心に日本のアジアでのあり方、世界の中での日本を考えたい。

### ●合格のコメント

参考図書などを揃えるための支援は助かります。さらに多角的に研究を掘り下げることができます。私は1945年生まれ。日本の戦後と共に生きてきたことを宿命と捉え、このテーマに込めた思いを教育の場で伝えていきたい。市民の意識改革や若者への正しい歴史の伝授など、教育の重要性には日々痛感しています。アジアの中で、また世界の中で日本が理解されれば、リーダーとしての活躍の場も模索できると信じています。